Bull. Kanagawa Pref. Mus. No. 6, Jul. 1973

内陸に迷行した海鳥2種について

中　村　一　恵

On Four Examples of *Pterodroma hypoleuca* and *Phaethon rubicauda* Strayed Inland by a Typhoon

Kazue NAKAMURA

The wanderings of tropical sea birds, especially the gadfly petrels *Pterodroma* spp. and tropical birds *Phaethon* spp. to Honshu Island, are considered by no means rare, but they are mostly found dead or nearly exhausted inland after the typhoons; they are liable to be whipped off the gales of typhoons and driven inland.

From September 16th to 19th in 1972, there was an inland drift of *P. hypoleuca* (three specimens) and *Ph. rubicauda* (single specimen) at southern Kanto plain covering two prefectures after the typhoon no. 20 had passed. The records were discussed with the weather conditions as a cause of the straggling.

はじめに

1972年秋季，シロハラミズナギドリとアカオネッタイチョウの2種4羽が，神奈川県を中心とする内陸四ケ所に落ちた。内陸迷行の背景になったと考えられる台風との関連においてこれらの海鳥記録をまとめ報告する。

記　　録

1. シロハラミズナギドリ *Pterodroma hypoleuca*

第1例：1972年9月16日，横浜市港南区日野5820付近のどぶ川の溝の中に，衰弱して落ちていた本種[1] 1羽が住民に拾われ，18日横浜市野毛山動物園に届けられ保護されたが，翌19日死亡した。

第2例：同9月18日[2] 横浜市港北区師岡町700 に負傷衰弱してうづくまっていた本種1

---

1) 横浜市野毛山動物園堀浩氏による。

2) 5日間保護飼育をされた渋谷博子氏によると拾得された日付に一日のずれがあるかもしれないというので，17日に落ちた可能性あり。

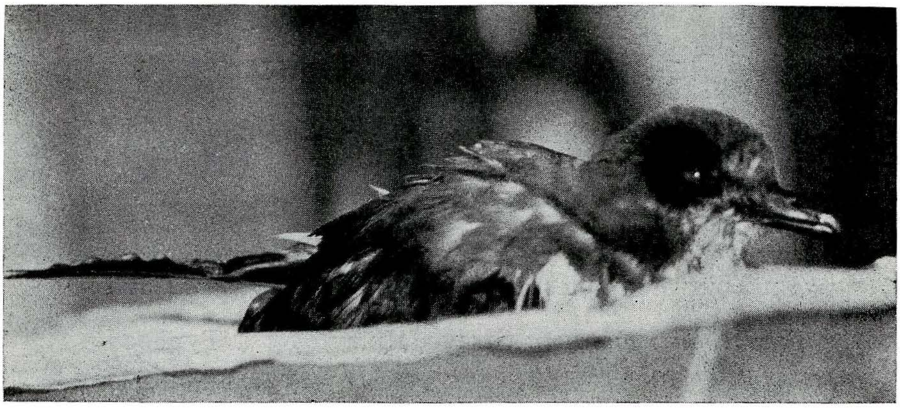

Fig. 1　シロハラミズナギドリ*Pterodroma hypoleuca*（横浜市港北区師岡町で1972年9月保護　渋谷博子氏撮影）

羽が住民に拾われ，22日，同じく野毛山動物園に届けられ保護されたが，10月６日に衰弱死した（Fig. 1）。

第３例：同９月17日，東京都町田市木曽町5839に落ちた本種[3)] １羽が住民に拾われ，18日に多摩動物公園に届けられ保護されたが，19日に死亡した。外傷はなかったが衰弱していた[4)]。

以上シロハラミズナギドリ３例は，すべて衰弱していたものが保護され，後に死亡している。うち１羽には右翼骨折があったというが，標本が残されておらず，残念ながら詳しい調査はできない。幸い港北区の個体については記録写真が残され，本種と判定された。

2.　アカオネッタイチョウ　*Phaethon rubicauda*

同９月19日[5)]，付近の住民が弱っていた本種１羽を拾い，江ノ島海獣動物園に届けた。同園でしばらくの間，シラオネッタイチョウとして飼育展示されていたが，鑑定の結果，本種の幼鳥と判定された（Fig. 2）。

以上海鳥２種４羽が内陸に迷行した直前に大型台風が日本に上陸している。この台風20号は，９月16日18時，和歌山県潮岬付近から紀伊半島に上陸し，毎時55キロという早い速度で北上し，17日朝には日本海に抜け，北海道西岸沖に去った（Fig. 3）。

記録の考察

海鳥はときどき大量死を起こしたり，海岸に打上げられ，あるいは内陸に迷行して死亡することがある。黒田長久氏（1967）は，1）海流異変による食物不足（ハシボソミズナギドリ：川口他1964；小沢1964），2）特定の場所の季節風（新潟県柏崎：千羽1965），3）台風（南方の海鳥とくにシロハラミズナギドリ，グンカンドリ，ネッタイチョウ，セグロアジサシ），4）渡りと悪気象の偶然の一致（オオミズナギドリ：黒田1966），5）ときどき通過する低気圧（アカエリヒレアシシギ，オオミズナギドリなど）などをあげて，海鳥

3）4）*Anon*（1972）どうぶつと動物園1972年11月号および東京動物園協会伊藤政顕氏による。

5）本種の拾得者が不明で追跡調査ができず，発見日および正確な採集地は不明であるが，シロハラミズナギドリの例から推察して，発見日は届けられた日の１～２日前であろうか。

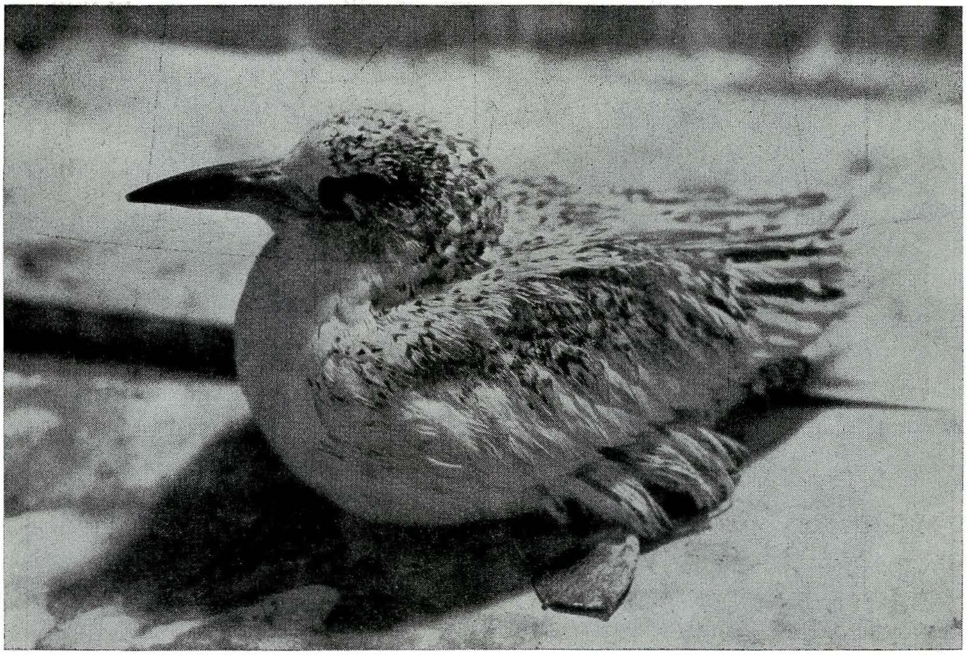

Fig. 2　アカオネッタイチョウ *Phaethon rubicauda*（江ノ島付近で1972年9月保護）

の斃死原因とした。

従来，南方海鳥の日本迷行の背景に台風の影響を考慮した記録は，Nakamura, T.（1954），黒田長久（編）（1964），風間（1971），中村・林（1973）らによる報告がある。

その根拠となる一つは，迷行個体の多くが，台風上陸後，あるいは通過後に発見され，第3図に示した通り，海鳥の発見位置と台風経路がほぼ平行していることにある。

例えば，中村司氏の報告した山梨県からのシラオネッタイチョウとシロハラミズナギドリの例は，9月16日に発生し，25日に知多半島に上陸し，26日には三陸沖に抜けてカムチャッカ方面に去った台風13号（1953年）の通過後の26日に発見されている。また黒田長久氏のまとめでは，九州に上陸し，日本海に抜け，再び東北地方に上陸した後三陸沖に去った8月の台風14号（1964年）の通過後に長野県上伊那郡でシロハラミズナギドリ1羽が記録され，日本上陸後は14号とほぼ同じコースをたどった9月の台風20号の通過後には東京都杉並区からも同じくシロハラミズナギドリ1羽が記録された。

四国・中国地方に上陸し，日本海の真中を通ってカムチャッカ方面に抜けた1970年8月の台風10号の通過後には，新潟県三島郡と燕市でシロハラミズナギドリ幼鳥各1羽が記録され，風間氏により報告された。

台風の多くは，東経120度以東，170度以西に発生し，170度以東に発生することは非常にまれである。台風の多くは月別にみると7～10月にいちばん多く発生し，発生した台風の⅔は大陸東縁，日本付近，日本東方洋上などを北東進する。特に9月の台風は南洋から琉球の東方に達し，ここで北東に転向して，その大部分が日本付近を通過する。7～9月には，多発域は他の月にくらべて緯度にして5～10度ばかり北上し，北緯5度から30度の全海域に広がり，日本海域に近くなる。

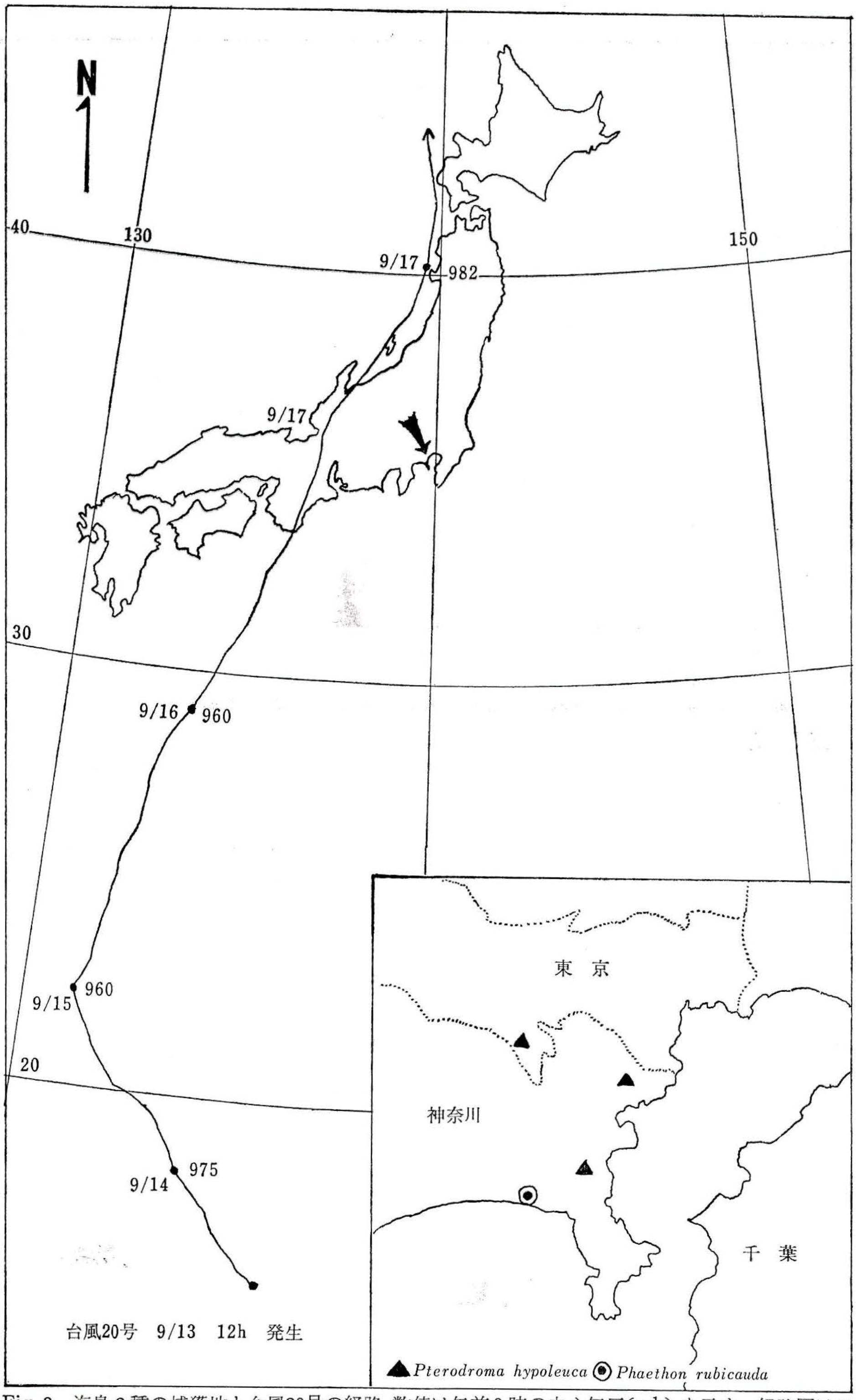

Fig. 3　海鳥2種の捕獲地と台風20号の経路 数値は午前9時の中心気圧(mb)を示す　経路図は日本気象協会による。The positions of *Pterodroma hypoleuca* and *Phaethon rubicauda* captured and the passage of typhoon no. 20.

望月氏（1969）は，1965年9月上旬，伊豆諸島からマリアナ諸島にかけての海鳥を調査し，北緯23度から伊豆諸島にかけてシロハラミズナギドリが少なくないことを報告し，夏季は北上する傾向が強いと述べているが，迷行個体の多くがこの季節に集中していることと，あわせ考慮すれば興味深い。

おわりに

台風に巻き込まれる海鳥の種類は大体決まっている。台風によって南方海鳥が運ばれる機構は，過去の迷行記録を集積し，各々該当する台風の性状との上で討議されねばならないが，前記した東京，長野，山梨，新潟などの記録はすべて台風経路の右側に現われており，本報告の例[6]にもこれは当てはまる。

台風の渦の流れは左巻であるから，内陸に迷行する場合，一般的傾向として台風経路の右側，即ち東側に海鳥が落されている[7]ことは注目に値する。

終りに，農林省林業試験場三島冬嗣技官にはご指導並びに種名同定のご協力を賜わり，国立科学博物館黒沢良彦博士には，迷蝶の迷入機構についての知識と文献に関して，暖かいご援助をいただいた。

横浜市野毛山動物園堀浩獣医，東京動物園協会伊藤政顕氏，江ノ島海獣動物園小田哲之亮獣医の方々からは，それぞれ海鳥記録について種々ご教示を得た。横浜市在住の渋谷博子氏から貴重な記録写真をご提供いただいた。台風に関する資料は，日本気象協会のご好意によるものである。

以上の関係各位並びに追跡調査にご協力いただいた方々に深く感謝します。

文　献

風間辰夫　1971　シロハラミズナギドリ（*Pterodroma leucoptera*）の渡来　鳥20（89）：204-205

黒田長久（編）1964　シロハラミズナギドリの内陸迷行の二例　山階鳥研報4（2）：121-123

黒田長久　1967　鳥類の研究　生態　新思潮社

望月英夫　1969　日本の暖海で観察できた海鳥について　鳥19（86）：1-7

中村一恵・林公義　1973　館山湾にコグンカンドリ　野鳥38（3）：49-50

Nakamura T. 1954 The Capture of *Phaethon lepturus dorotheae* and *Pterodroma leucoptera hypoleuca* from Yamanashi Prefecture 山階鳥研報 5：225-226

和達清夫（監修）1958　日本の気候　東京堂

---

6) 1972年9月16日夕刻より17日早朝にかけて，近畿地方を台風20号が通過した（第3図参照）3日後，京都市嵯峨新宮町でヒメシロハラミズナギドリ *P. longirostris* と思われる1羽が記録されている（1973年1月12日付朝日新聞による）が，これが同じ台風の影響とするならば，この場合は経路の左側に当る。

7) 黒沢良彦氏（1966, 1972）は，南方の蝶が台風に巻き込まれ，日本に運ばれる機構を詳しく討議され，必ず台風経路の東側に迷蝶が落されることをすでに指摘しておられるが，海鳥の場合を考える上で非常に参考となった。